

発行所
津 奈 木 公 民 館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111(代)
印刷所 旭 印 刷
電話(水俣)4101番

津 奈 木



風ん子サークル(10) カヌーに挑戦

すがすがしい朝を迎えた。日中は非常に暑い良い天気。風ん子サークルの団員がカヌーに挑戦しました。まず指導員の先生に力又の乗り方やオールの漕ぎ方を一通り習い、いざ本番です。今まで水のかけ合いに興じていた子供達の目つきが、真剣になります。しかし、さつき教えてもらったのに思うようにいきません。指導員の先生をこそずらせながら何とか全員、カヌーを漕ぐことができました。でもやっぱり一番楽しそうな姿を見せたのは休憩時間です。今まで静かにしていた子供達、われ先とばかりにプールの中で水しぶきを上げ、館内を走り回っています。今日一日、楽しかったかな。

一言

子育ても過ぎ、還暦も過ぎいよいよ初老となる。私達の年代は戦争の体験も食糧難にも合、物は不足し、今の子供さん達には想像も出来ない。又世の中の変化も著しく日々発展し、高度経済成長、宇宙への開発、化学やクローン羊の誕生等さまざまな分野で限り無い発展がなされている。これからは心の時代だと思ふ。心豊かに自分の感性を磨いて行きたい。それと同時に縦のつながりが横のつながり又社会とのつながりが平和であり何事もプラス思考で物事を処理したい。心は自分自身で培い育てて行くもの。町では色々の講座を用意して下さり私も心の糧として、二、三受講している。今までは何の感動もなく日々を見送って来たように思ふ。短歌や肥後狂句をする様になつてからは何気ない物にまで心が止まり農作業しながらも喜びがある。投句したのが活字になると又意欲も出る良い刺激である。女性の地位も向上され、男性女性の特性をうまく生かし合つてこそ心豊かになれるらしい。ある共働きの家庭の日常生活を見て本当に微笑ましい。非常にリアルで、男だから女だからでなく合理的に明るく日々を送っている様である。心の持ち様で幾つになつても心の青春は出来ると思ふ。これから先命のある限り青春でいたい。

(椎葉豊子記)

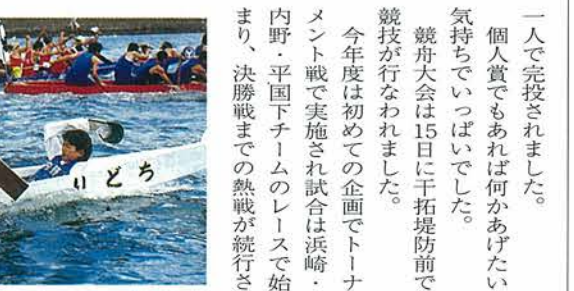
一(町民体育祭)一 熱戦 野球・競舟大会



去る8月13日から15日まで、盆恒例の町民体育祭野球大会、競舟大会が開催され、熱戦が繰り出されました。



前年度優勝の染竹チームから優勝旗が返還され古川チームの新立豊さんが選手宣誓を行いました。Aコートの第一試合は浜崎チームと小津奈木チーム、Cコートは平国下チームと福浦チームの対戦が始まり、一日目はナイターで午後8時まで試合が行なわれた。二日目は、午前9時から試合が始まり優勝戦は、大泊チームと浜崎チームが対戦し7回裏に大泊チームがさよなら安打で逆転し、この優勝し今年度の野球大会は終了した。



一人ですごい完投しました。個人賞でもあれば何かあげたい気持ちでいっぱいでした。競舟大会は15日に干拓堤防前で競技が行なわれました。今年度は初めての企画でトーナメント戦で実施され試合は浜崎・内野・平国下チームのレースで始まり、決勝戦までの熱戦が続行されました。

また、開会式では舞鶴太鼓の皆さん方のオープニングセレモニーがあり大会を大盛りあげて頂きました。

(野球大会)
優勝・大泊、二位・浜崎、三位・倉谷、内野
(競舟大会)
優勝・日添、二位・大泊、三位・日当

油彩

「ホテルの窓より」 一九六四

境野一之作



どうしてもないほど退屈で、でもこれと言ってやることのない時は、部屋の中でただぼんやりとして居るのもいいね。燦々と降り注ぐ太陽の光の中で優しい気持ちになれる街。アップルパイをこしらえて、誰かが来るのを待ってみよう。

庁舎美術館 (73)

童話発表会



童話を発表してくれた各学校の児童です

町内各小学校代表の児童十二名が参加して、つなぎ文化センター音楽ホールで開催されました。発表は低学年、中学年、高学年の順番で発表し、それはそれは素晴らしい発表ばかりで、審査員の先生方も審査集計の折大変なやんでおられました。

なお、八月六日に芦北町の「もやい直しセンター」で開催された水俣・芦北地方童話発表大会に次の児童が選ばれ一生懸命に発表してくれました。

(低学年) 平国小学校一年・鬼塚文佳さん、(中学年) 平国小学校三年・濱田健智さん、(高学年) 津奈木小学校五年・竹永あかねさん。

あとがき

桜戸の成田タオさんが八月二十二日百才の誕生日を迎えられました。心よりお慶び申し上げます。今年度より新しいスタッフも加わり男性四名女性四名計八名で月一回の編集会議を開きどうしたら皆さんに読んでいただけるか、親しまれる広報紙づくりを目指して頑張っております。

編集委員一同精一杯努力してまいります。御指導下さい。

(編集委員紹介)

石田ミサ子、澤井静代、篠原尚子、本山愛、事務局四名。

あけぼの学習会

健康の条件 (自強術)

本年度のあけぼの学習会も順調に回を重ね、受講者の方々も楽しく学習しておられます。



今回は、水俣市の山田功先生が「健康の条件」ということで「自強術」という大変珍しい、日本最

津奈木幼稚園 七夕祭り誕生会

七月の誕生会は七夕祭りと一緒にしました。



「プールで泳げるようになりますように。」
「まほう使いになりたい。」
「早く大人になりますように。」
「一輪車に乗れるようになりますように。」
「等々…」
生憎の雨空で子どもたちの願いは、天まで届いたのでしょうか？



平国小「剣道」 夏期鍛錬!!

朝の涼しい時間を利用した夏休み特別朝稽古を行ってきた平国少年剣道部。現在部員わずか七名、週二回朝六時から七時までの一時間、互いに礼を交した後、さっそく準備運動、切り返し、打込み稽古と汗を流してきた。



子供会 楽しい旅行

子供達が楽しみにしていた三井グリーンランドバス旅行も、台風九号の接近で、出発後間もなく雨が降り出して子供達に申し訳ない気持ちでしたが、御客が少なかつたので、人気の仁王等のジェットコースターもすぐに乗れて、雨に濡れずの搭乗で、恐さも倍増したみたいでした。雨の



私が、図書室で借りた「木馬が乗った白い船」という本は、久しぶりに読む本で、話がいっつかあつて読みやすく、ページが先へ先へと進んでいきました。
読んでいくうちに、「ぬいぐるみ」という話に差しかかりました。
この話には、「シオとコシヨウさん」と呼ばれている、白と灰色のゾウのきぐるみを着てアークードで仕事をしている男の人が出てきます。彼がきぐるみを着て働いているのは、病気の恋人のため八百屋のメロンを盗もうとしてつかまり、八百屋の主人を刺してしまつたからなのです。土下座して謝っても許してくれない主人に、それまで何度も受けてきた屈辱を彼はだぶだぶと吐き出します。それは貧しさゆえの悲劇だつたと思います。

読書感想文 「ぬいぐるみ」を読んでの感想 津奈木中2年 村上いく枝

そんな気持ちにかられ、何度も何度も読みました。しかし、何度読んでもあの気持ちは変わらなかつたのです。
きっと、私の心を打つものがあつたと同時に、感動をこえる何かがあつたからだと思います。



ここに、こんな人が...

小津奈木地区の 金さん銀さん!!

小津奈木地区に住む
松永シズヲさん(八十二才)と小島ヤエさん(八十六才)は、「小津奈木のきんさんぎんさん」と呼ばれる仲の良いお二人です。隣同士に住んでお互いに頼りにしていらつたそうです。が、十年以上前から釣りに毎日出かけるようになったそうです。



午前中は、お二人共畑仕事などをしてしまつて、昼からの釣りに備えます。午後、潮が満ちてくるのをみながら、手作りのエサを持つて二人仲良く海へと出掛けます。釣ってきた魚は、自分でこしらえて食べたり、人にあげたりす

るそうです。少々雨でも釣りに行くそうですが、冬の寒い時でも、ガラカブが釣れるからと、やっぱり行つて、潮が引いている時はカキ打ちを、満ちてきたら釣りを楽しまれるそうです。潮風にあたるせいか、風邪はひかない、とお二人共とてもお元気です。



わが町の文化財・石造物(13)

大迫蛭子鼻の恵比寿さんと碑
恵比寿御神像 縦20cm横16cm
恵比寿神祠 縦12cm 横80cm
恵比寿屋敷開設記念碑 縦110cm 横40cm、此ノ屋敷ハ突角ヨリ、南

川崎喜太郎 勝戸、増田亀太郎
古川己八 大戸、重保
重川熊次 仲買人、松崎三造
船場吉次郎 小漁師頭
川崎三治郎 エビス様
山下和市 恵比須、恵美須、サンセイ
黒江真助 記される。イザナギ
上野方八 イザナミの神の子、足の立たぬ蛭子神、又大国主神の子、事代主神ともいわれる。佐々木 緑記
空梅雨の日々を咲きつぐあじさいの花おももとは色は移ろう 野田浦子
窓に見る前山の木は何ならむ風吹けばゆるる雨降れば濡るる 野村正美先生

短歌

本郷武雄選
一人来し夕べみ寺の青芝に散り敷き著き桐の花びら 寺本ツルヲ
初なりの苦瓜焼きて食みおればなつかしき味口にひろがる 福田八重子
朝顔の垣根作りし亡き人の笑まいる 朝顔の垣根作りし亡き人の笑まいる 朝顔の垣根作りし亡き人の笑まいる

肥後狂句
心細い 無事着くか一人旅 敬老会
親子で出席とは夢ごたゐる 敬老会
心細い 出費の増ゆる事ばかり 敬老会
一日だけじゃ物足りん 敬老会
心細い 年金だけじゃ暮らされん 敬老会
七十才はまだ若か 敬老会
心細い 次ん勘定まで持つとか 敬老会
米寿になればかたろたい 敬老会
白足袋 敬老会

五つ教えて、三つほめ

二つ叱つて...

小嶋 靖 令

つまり学習意欲があります。つぎに、体育大会・文化祭などの学校行事への取り組みにおける「やる気」そして、子どもたちの生き甲斐とまでいわれている部活動に積極的に参加する「やる気」など日々生活している全場面でのいろいろな種類や内容の「やる気・意欲」が存在するのです。

それでは、学習に対する「やる気」について考えてみましょう。児童・生徒が学習する際、学習活動に主体的・積極的・能動的に取り組もうとする姿勢、気持ちが大き

切です。その気持ちを高めるための動機づけには、外からと内からとがあります。外からのもの(外発的なもの)とは、賞や罰を与えたり、競争をさせる・励ますことによつて学習への意欲・やる気を盛り上げることです。これに対し

めてやることです。人には長所・短所があります。親にしろ教師にしろ、どうも悪いところだけ目につく傾向があります。

「次笠」今更 気にするな
一笠二笠つ十月十二日まで
つなぎ文化センターへ